



**コロナ禍での
市税徴収猶予の対応は**



宮崎 明子（創風）

問／市税徴収猶予の申請状況はどうだったか。

答／令和3年2月1日までに、個人・法人合わせて130人に計1億914万円の徴収猶予を許可した。固定資産税の猶予が多くみられた。

問／今後の市独自の市税徴収猶予の特例は、これまでの課題を踏まえてどう対応するのか。

答／令和2年も途中で経済状況が緩和され、申請せずに済んだ方もいた。分割納付なども含め、個々の状況に応じて、より丁寧に対応していく。

シニアパスポートの在り方を問う

問／現在の利用状況は。

答／22年続く事業で、70歳以上が対象。温浴施設等の割引や民間事業所によるサービスがある。約4万8千人が所有し、年間50回利用する方もいる。

問／20年間で高齢者事情は変わったと考える。今後は①日々難儀になるこ

との生活支援②健康づくり③生きがいや社会貢献の、大きく3つのふり幅があると考えるがどうか。

答／一律、プッシュ型の支援の在り方も含めて検討し、今後の福祉施策の充実に努めていく。



**今冬の教訓をいかし、
次への「備え」を**



高橋 浩輔（みづ）

問／車社会の進展や雪下ろし人材の不足等、社会状況の変化に伴い、一斉雪下ろしの実施方法も変化を求められていると考える。例えば、ブ

ロック分けをして実施日を分散させてはどうか。

答／降雪状況にもよるが、円滑な交通や雪下ろし事業者確保等の観点から、ブロック分けをして実施日を分散させる手法も今後検討していく。

問／一斉雪下ろしは毎年あるわけではない。今冬の経験をしつかりと次世代に継承し、これらに備えていくために工夫をしていることがある

れば聞きたい。また、庁舎内における豪雪対応経験者や外部の人材活用は行われているか。

答／まずはシミュレーション訓練に尽きる。災害を想定した机上訓練はこれまでも行ってきた。過去の記録をひもときながら早期に備えている。今冬は担当部署を離れた方にも急ぎよ加わってもらい、その知見を対応にいかした。庁舎内外問わず、災害に対する知識や経験がある方をリ

スト化し備えておく取組は今後も継続していく。

問／今冬において行われた「共助」の取組や事例を各町内会の自主防災組織にいかし、今後に備えてもらうための働きかけはできないか。

答／既に防災士会と話を始めている。冬期間における「自助」及び「共助」の取組について、各地域で行われた今冬の取組を集約し、広く知らせていくことから始めたい。



**「運動は薬」運動習慣で
健康になるために！**



中井 かおる（みづ）

問／生活習慣病の予防のため、個々の健康状態や健診結果に基づいた個別運動プログラムの提供が必要と考えるがどうか。

答／令和2年度から上越教育大学と協力し、生涯スポーツ指導員が個別運動プログラムを作る事業を開始し、生活習慣病予防講座の参加者にも促している。今後デー

タを蓄積し、効果を検証していく。



国民病と言われるスギ花粉症の発症予防を！

問／現在、高田城址公園内には180本以上のスギの木がある。スギ花粉症予防のため、公園内のスギの管理、伐採計画についての考えは。

答／城址公園として樹林の保護・保存に努めるエリアであり、公園内という限られた伐採での効果の有無など課題もある。現時点では伐採は考えていない。

多様な環境での学習が認められる時代に

問／不登校児童生徒への支援について、文部科学省は「自宅でのICT等を活用した学習活動の出席扱い」が可能と通知したが、市の現状は。

答／フリースクールや民間教育機関の利用で出席扱いとしている児童生徒は現在、小学校4校で4人、中学校9校で14人である。引き続き、支援の充実に努める。